

警 防 編 (救助)

(令和5年1月1日～令和5年12月31日)

救助出動件数 80 件

救 助 人 員 37 人

救助業務の概要

令和5年中における救助出動件数は80件で、前年と比べ11件増加した。コロナ渦による行動制限が本格的に始まった令和3年の63件を下限に、令和4年は69件、新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に引き下げられ、様々な規制緩和が行われた令和5年は80件と、コロナ渦以前の100件超えとまではいかないが、着実に増加傾向が見られる。

また令和5年に救助出動した80件の内、実際に救助活動を行ったのは31件で、救助した人数は37人となっている。

事故種別で見ると、「その他の事故」が44件、「交通事故」が30件、「水難事故」、「風水害等自然災害」がそれぞれ3件となっている。「その他の事故」の内訳については、山岳地帯での急病や負傷事案が11件と最多で、そのほか高所からの転落事案や、施錠された屋内での意識消失を伴う急病事案が挙げられる。

くじゅう連山を管轄地域に有する当本部では、令和5年7月25日に山岳救助隊を正式に発足させた。また同日に総務省消防庁から無償貸与された小型救助車の受領を管理者に報告し、運用を開始した。山岳救助隊にあっては、約2年間の訓練期間を設け隊員の養成を行い、同時期に各種規定を整備し発足に至った。小型救助車は、全国6ブロックにそれぞれ3台ずつ計18台が配備されており、小型、登坂能力、走破性、資器材の搬送力に優れた車両で、当消防本部では先述のくじゅう連山を管轄する玖珠消防署に配備している。山岳地帯での事案発生時には、山岳救助隊の出動車両として活用・実動しており、今後更なる活躍が期待される。

他機関との合同訓練も、コロナ渦を経て順次再開しており、これまで以上に連携の充実及び強化を図り、各種災害に備えているところです。

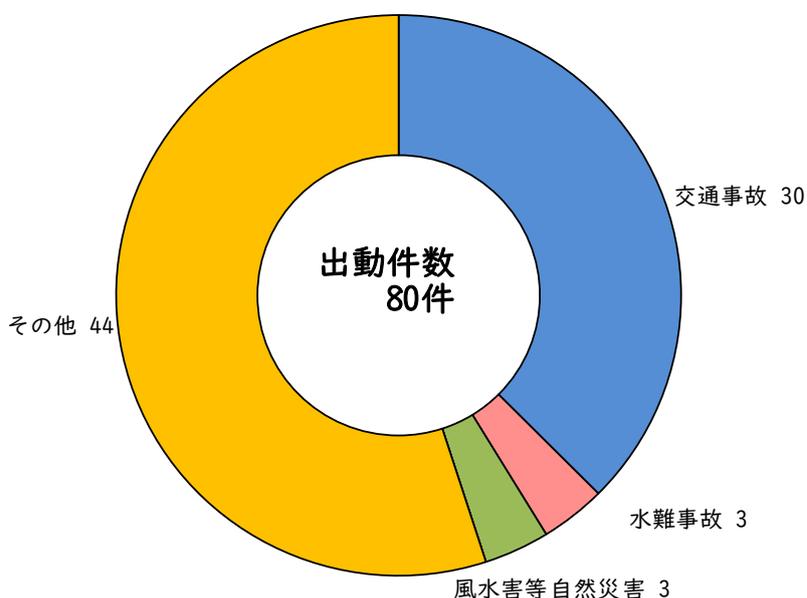


令和5年7月25日 『山岳救助隊』発足式

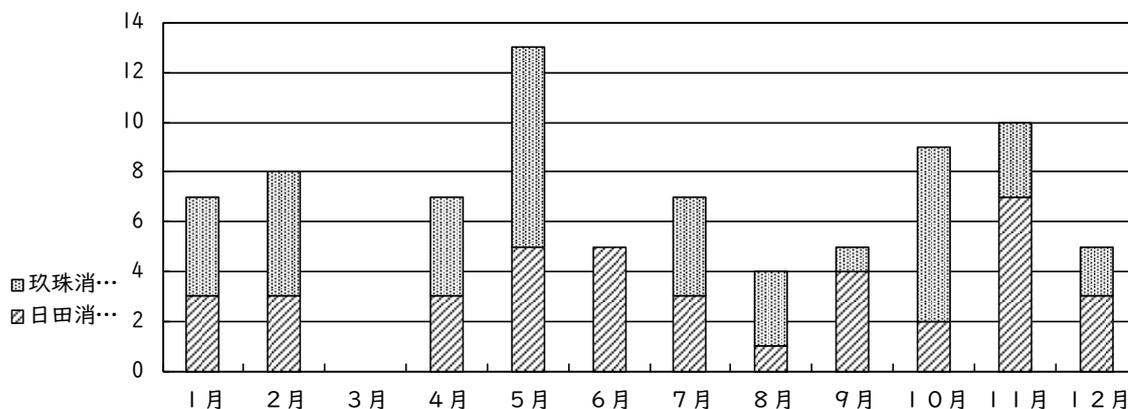
事故種別救助出動及び活動状況

	火 災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機械によ る事故	建物等に よる事故	ガス及び 酸欠事故	爆発事故	その他	計
出動件数	0	30	3	3	0	0	0	0	44	80
出動人員	0	262	27	17	0	0	0	0	307	613
活動件数	0	9	3	0	0	0	0	0	19	31
活動人員	0	73	27	0	0	0	0	0	110	210
救助人員	0	10	3	0	0	0	0	0	24	37

事故種別救助出動状況



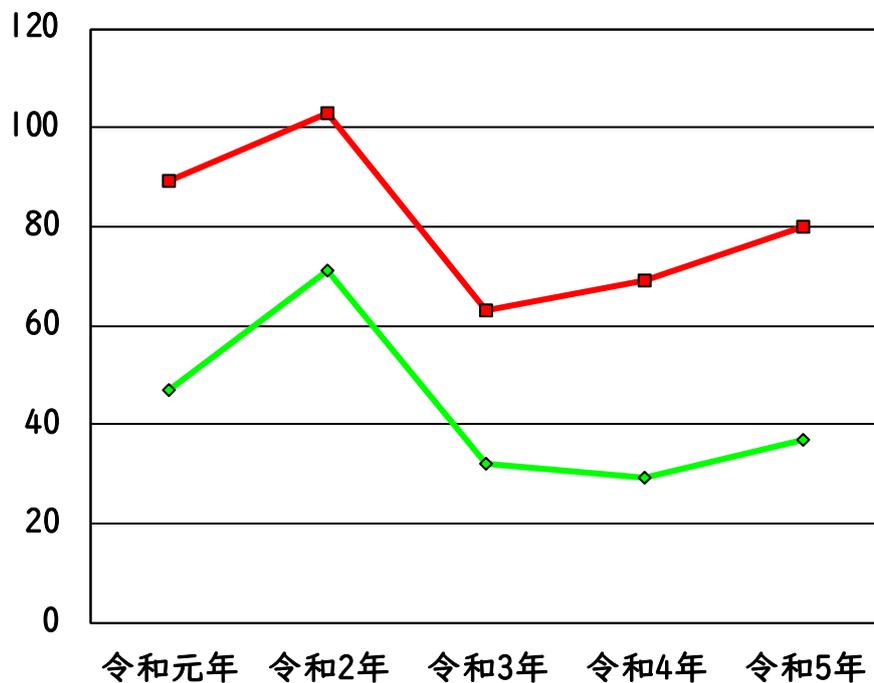
月別及び署別出動件数



	計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
出動件数	80	7	8	0	7	13	5	7	4	5	9	10	5
日田消防署	39	3	3	0	3	5	5	3	1	4	2	7	3
玖珠消防署	41	4	5	0	4	8	0	4	3	1	7	3	2

5か年救助出動件数の推移

■ 出動…
◆ 救助…



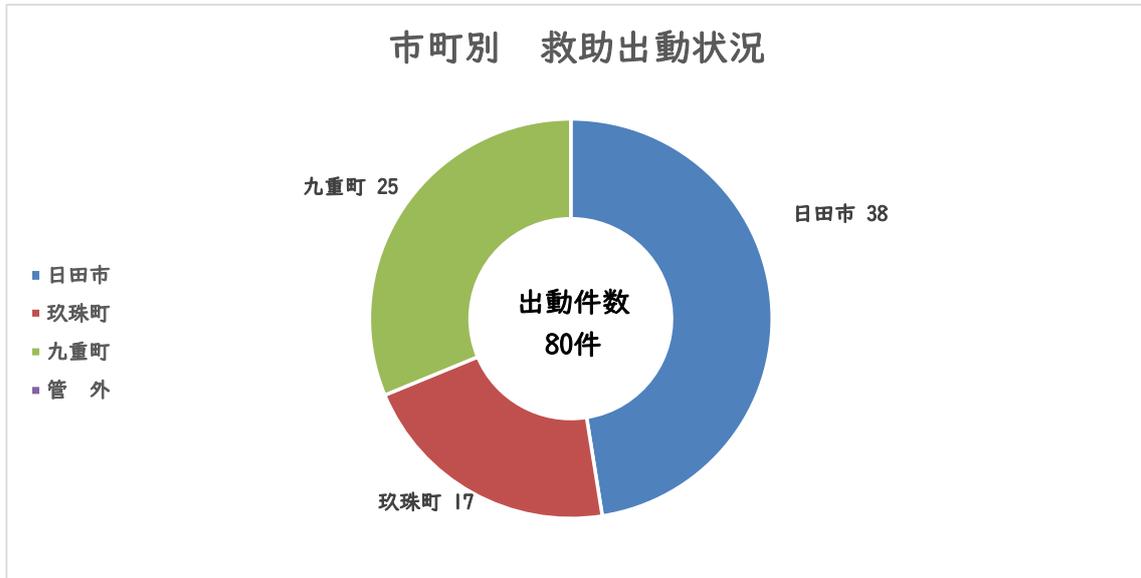
	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
出動件数	89	103	63	69	80
救助人員	47	71	32	29	37

事故種別発生場所別出動件数

	火 災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機械によ る事故	建物等に よる事故	ガス及び 酸欠事故	爆発事故	その他	計
住 居				2					7	9
その他の屋内									1	1
高速自動車道		4								4
その他の道路		19		1						20
内 水 面		2	3						9	14
外 水 面										
山 岳									11	11
その他の屋外		5							16	21
地 下										
そ の 他										
合 計		30	3	3					44	80

市町別出動件数

	火災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機械によ る事故	建物等に よる事故	ガス及び 酸欠事故	爆発事故	その他	計
日田市		13	2	3					20	38
玖珠町		9	1						7	17
九重町		8							17	25
管 外										
計		30	3	3	0	0	0	0	44	80



防災ヘリコプター要請件数

(令和5年1月1日～令和5年12月31日)

	火災	救助	捜索	計
日田市		1		1
玖珠町				0
九重町		7		7
管轄外				0
計	0	8	0	8